



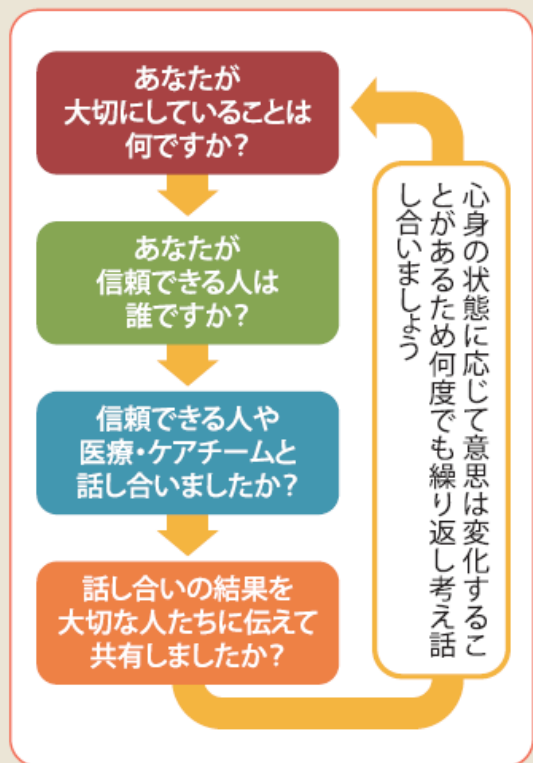
人生会議 (アドバンス・ケア・プランニング) について

アドバンス・ケア・プランニング (略してACP)は、日本で「人生会議」と愛称がつけられました。

誰でも自分らしい最期を迎えたいと思われるでしょう。しかし、最期の迎え方は事前に決まっているわけではなく人それぞれです。そのため「自らが希望する医療やケアについて事前に考えておく」ことが重要であり、患者さまが大切にしていることや、どのような医療やケアを望んでいるかについて自ら考え、信頼する人々と話し合うことが必要だと考えています。それがACP＝人生会議です。

例えば心肺停止で意識のない状態になってしまったら、その思いを患者さまご本人から聞くことはできません。厚生労働省によれば「命の危険が迫った状態になると約70%の方が医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなる」といわれています。結果としてご家族な

話し合いの進め方(例)



厚生労働省パンフレットより

ど患者さまの信頼できる人たちが「本人だったらたぶんこう考えるだろう」と想像しながら、医療やケアについて話し合っていくことになります。

そのため、患者さま自身がどのように思い、その思いをどのような形で遺し、誰を信頼して託しておくかを考えることが重要なのです。心身の状態によって意思が変化する可能性があります。ですから、何度でも繰り返し考えて話し合うことが必要だ

と思います。

私も緩和ケアチームでも、終末期の患者さまにはこの人生会議を意識しながらコミュニケーションを取らせていただいています。

基本的には病気になった方が対象ではありますが、誰であっても最期を迎える時が訪れるのは揺るぎない事実です。健康なうちから人生会議を行うておくことで、より豊かな人生を送るための目標を定めることができます。と思っています。

人生会議について